

2018年3月期 第1四半期 決算概要

テルモ株式会社
常務執行役員 IR・広報室担当
北畠 一明

2017年8月3日

2018年3月期第1四半期決算の概要について説明いたします。

海外売上の二桁伸長が牽引し大幅な増収増益を達成

(億円)

	16年度Q1	17年度Q1	増減率	為替除く 増減率
売上高	1,245	1,393	+12%	+11%
粗利益	692 (55.6%)	783 (56.2%)	+13%	+15%
一般管理費	397 (31.9%)	464 (33.3%)	+17%	+15%
研究開発費	81 (6.5%)	85 (6.1%)	+5%	+4%
営業利益	214 (17.2%)	234 (16.8%)	+9%	+17%
(のれん等償却除く)	259 (20.8%)	306 (22.0%)	+18%	+24%
経常利益	151 (12.1%)	227 (16.3%)	+50%	
純利益	101 (8.1%)	163 (11.7%)	+61%	

期中平均レート	USD	108円	111円
	EUR	122円	122円

- 売上高 : 心臓血管の全事業が二桁伸長し全体を牽引
- 営業利益 : 大幅な売上増に加え、粗利益率が改善
- 経常利益 : 前年同期の為替差損 (55億) に対し、今年度は差益 (2億)
- 純利益 : 内外子会社の税効果適用範囲拡大による法人税負担率の減



2/19

決算の総括です。

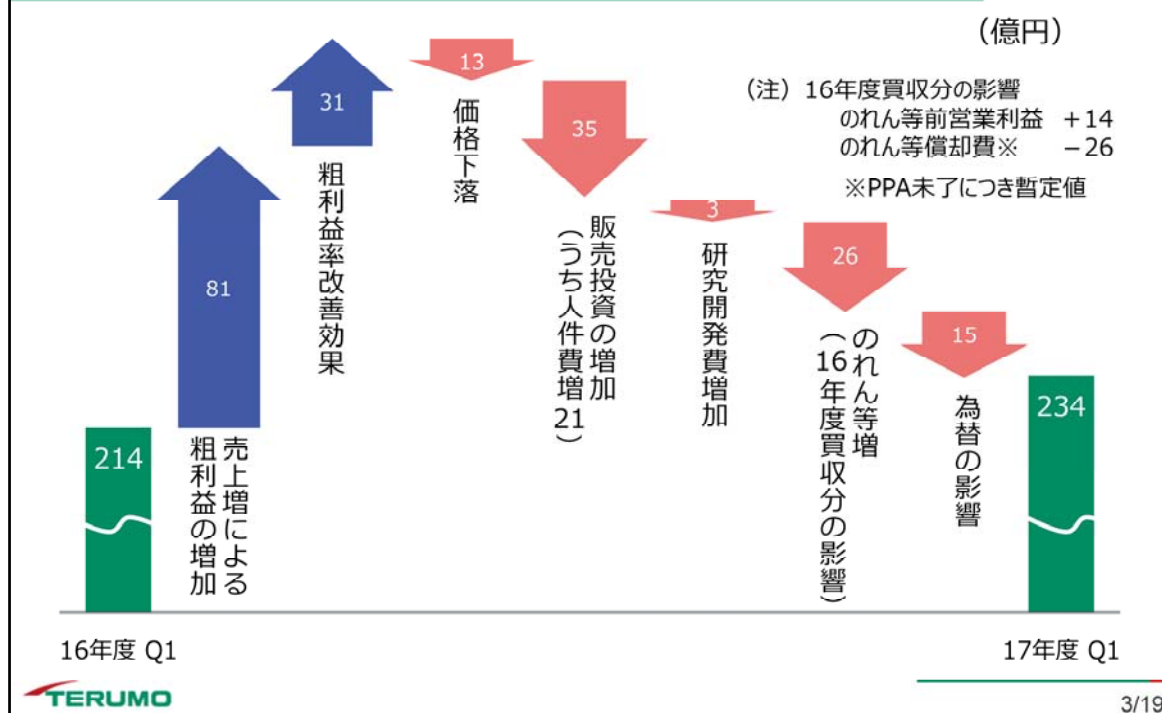
海外売上の二桁伸長により、大幅な増収増益を達成しました。売上高は海外全地域で二桁伸長となり、海外合計で前年同期比19%増となりました。また、心臓血管カンパニーでは、買収した事業の売上も好調に推移したこともあり、4事業全てで二桁伸長となりました。その結果、全社の売上高は12%増となりました。昨年度に実施した買収の影響を除くと4%増でした。

営業利益は前年同期の高い水準を上回り、前年同期比9%増となりました。買収の影響を除くと15%増、為替の影響を除くと17%増でした。

経常利益は、前年同期が55億円の為替差損に対し、当四半期は2億円の差益を計上したことにより、前年同期比50%増となりました。

純利益は、経常利益の増加に加えて法人税負担率の軽減もあり、前年同期比61%増となりました。

営業利益増減分析



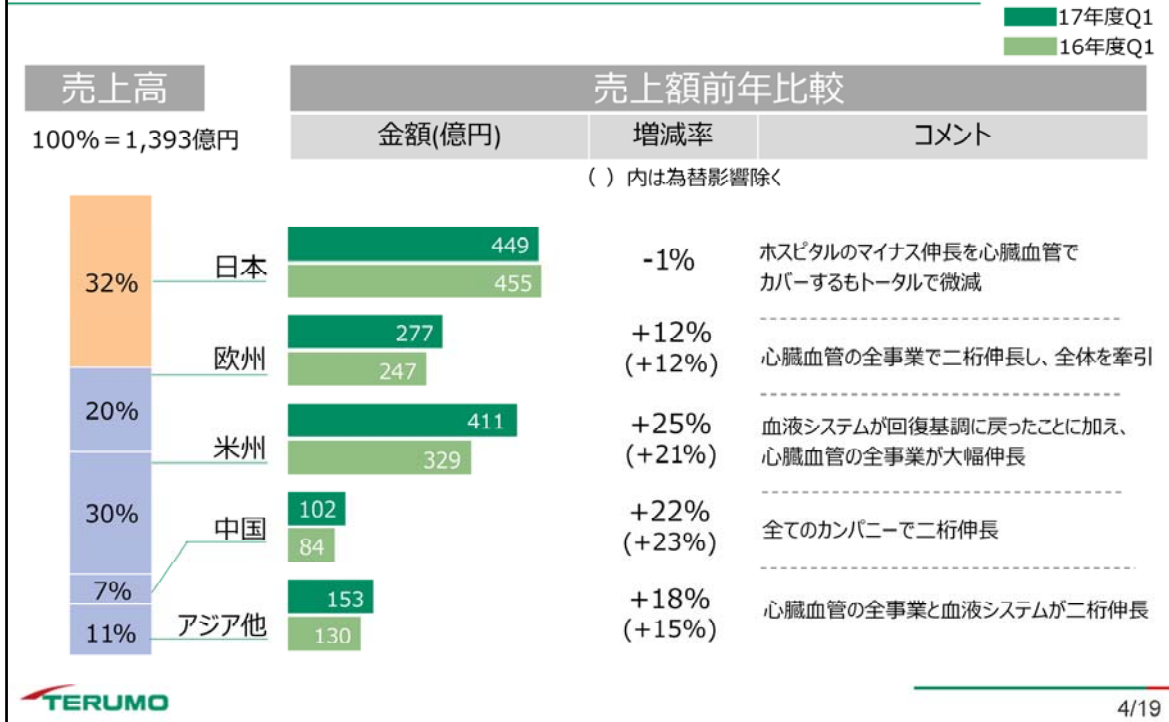
前年同期比での営業利益の増減分析です。

最初に増益要因を説明いたします。売上の数量増による粗利益の増加はプラス81億円でした。粗利益率改善効果はプラス31億円となりました。この項目は、昨年度までは、「コストダウン等による粗利益改善効果」と「事業ミックスの改善効果」という2つの項目に分けてお示していましたが、一時的な要因が多かったこともあり、一つの項目に集約しました。

次に減益要因です。価格下落はマイナス13億円で、ほぼ想定通りの水準でした。販売投資の増加でマイナス35億円、うち人件費の増加でマイナス21億円でした。今回から人件費の増分を内訳として示しています。その他、研究開発費の増加でマイナス3億円、のれん等償却費の増加で26億円のマイナス、為替の影響がマイナス15億円でした。内、期中平均レートの差による影響額は、前年同期と当四半期のレート差が小さかったため、マイナス3億円に留まりました。一方、前年度の第1四半期は、英国のEU離脱決定の影響により急激に円高が進んだため、海外子会社の棚卸資産に含まれる未実現利益の要消去額が当四半期と比べて少なく、その差がマイナス12億円となっています。

なお、2016年度買収分の影響額については、買収した会社・事業の当社グループへの統合が進んでいるため、他の項目に含めて示しています。ご参考までに、一部PPAが完了していないため暫定値ですが、当四半期において、買収分ののれん等償却前営業利益は14億円、のれん等償却費は26億円でした。止血デバイス「アンジオシール」の販売が好調に推移しているため、のれん等償却前営業利益は、年間の予想額30億円に対し、高い進捗率となっています。

地域別売上高



地域別の売上高です。

海外での売上が非常に好調に推移したことにより、海外全体の売上比率は2016年度比で4ポイント増えて68%に、日本は32%となりました。

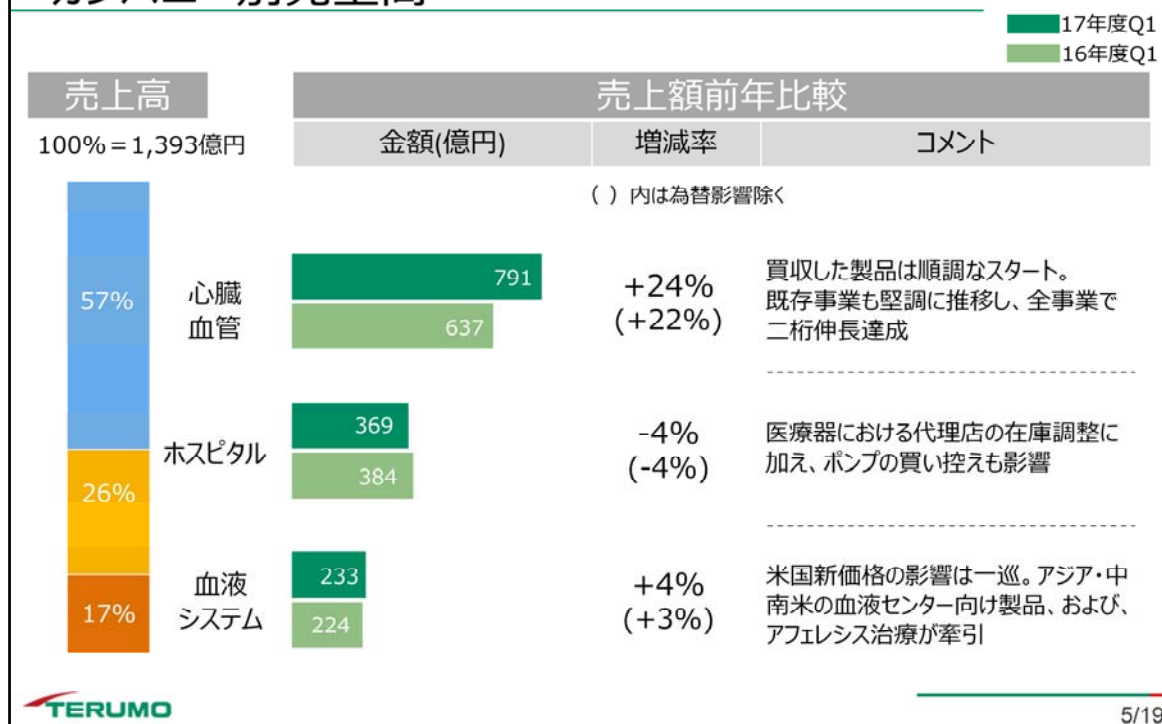
日本では、心臓血管カンパニーは増収でしたが、ホスピタルカンパニーの減収により、前年同期比で若干の減収となりました。

海外では、いずれの地域も心臓血管カンパニーが牽引し、二桁伸長となりました。為替の影響を除いた場合も同様に全地域で二桁伸長となりました。

中国では全てのカンパニーで二桁伸長となりました。

アジア他では、心臓血管カンパニーの全事業と血液システムカンパニーが二桁伸長となりました。

カンパニー別売上高



次にカンパニー別売上高です。

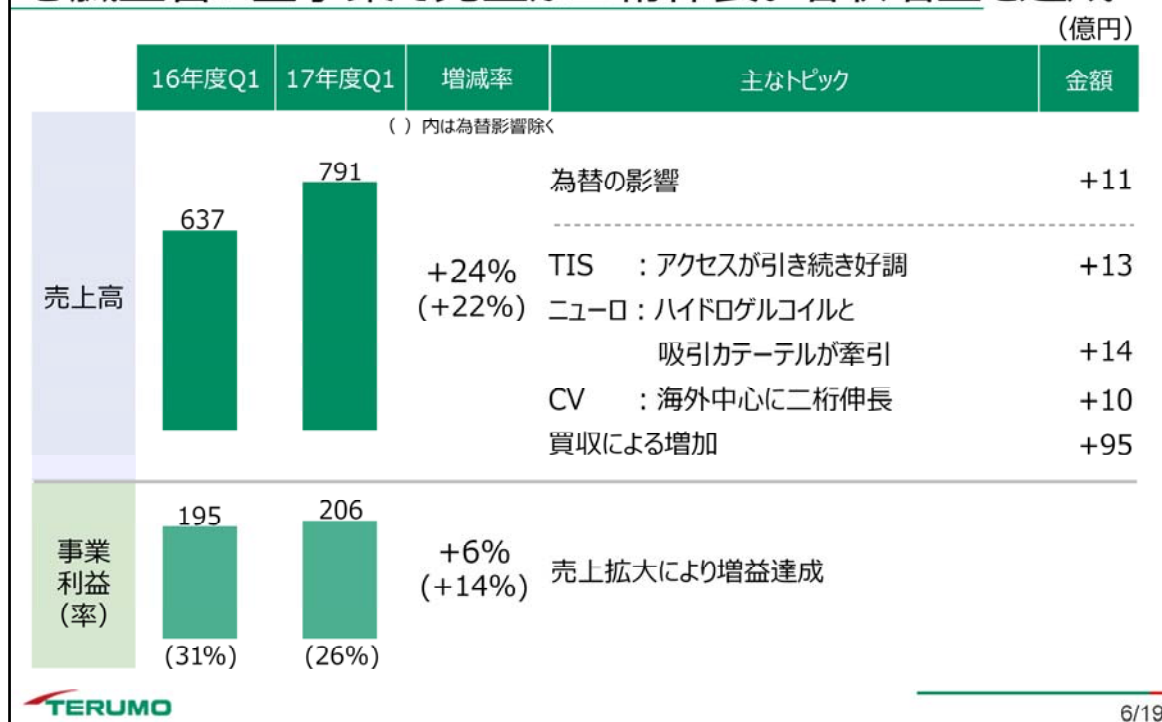
収益性の高い心臓血管カンパニーの売上比率は、2016年度の51%から6ポイント増えて57%となり、粗利益率の改善に寄与しています。中長期成長戦略では5年後に55%を目標としていますが、16年度の買収により現時点でその水準を越えました。

心臓血管カンパニーの売上高は、前年同期比24%増となりました。買収した製品の販売が順調な滑り出しとなり、既存事業の売上も堅調に推移した結果、全事業で二桁伸長となりました。TIS事業が前年同期比24%増、ニューロバスキュラー事業35%増、CV事業12%増、血管事業44%増となっています。

ホスピタルカンパニーの売上高は、日本で医療器の製品が代理店の在庫調整の影響を受けたことに加えて、輸液ポンプ・シリンジポンプの買い控えもあり、前年同期比4%減となりました。後ほどホスピタルカンパニーのスライドで詳細を説明いたします。

血液システムカンパニーの売上高は、2015年度下期以降に実施された米国の血液センター向け製品の価格改定によるマイナスの影響が一巡したことに加えて、アジア、中南米といった新興国やアフレスシス治療分野の売上増により、前年同期比4%増となりました。

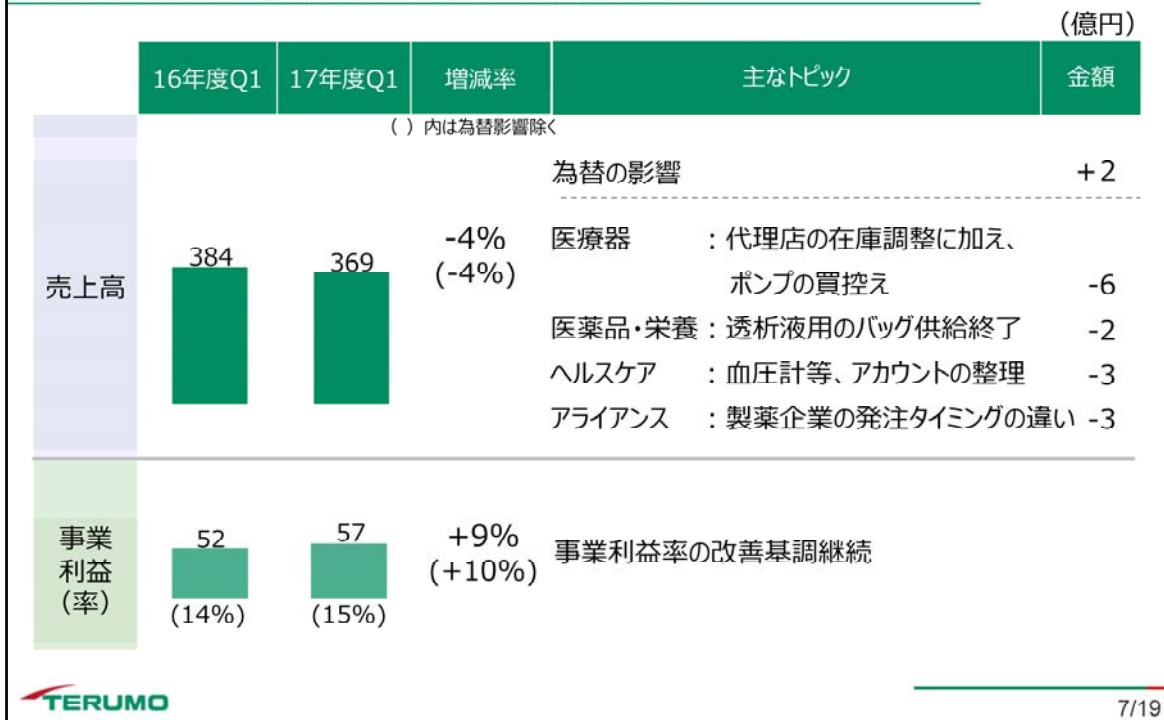
心臓血管：全事業で売上が二桁伸長。増収増益を達成



心臓血管カンパニーでは、既存事業が好調に推移したことに加えて、買収した事業の売上も好調に推移し、プラス95億円と大きく寄与しました。TIS事業はアクセスデバイスの販売が引き続き好調に推移しました。ニューロバスキュラー事業では、コイルの新製品投入やスタディの結果が追い風となり、ハイドロゲルコイルが好調に推移しました。また吸引カテーテルも大きく売上を伸ばしました。CV事業は、海外を中心に販売が堅調に推移しました。

事業利益は、売上拡大に伴い増益となりました。事業利益率は前年同期比5ポイント低下し、26%となりました。前年同期が一時的な要因で31%と非常に高い水準であったことに加え、為替の影響や価格低下、昨年度に買収したボルトンメディカル社の粗利益率がまだ低い水準にあることなどが要因です。2016年度年間の事業利益率が25%であること、また中長期成長戦略でも25%以上を目標としていますので、26%は標準的な水準と考えています。

ホスピタル: 収益性の改善基調続く



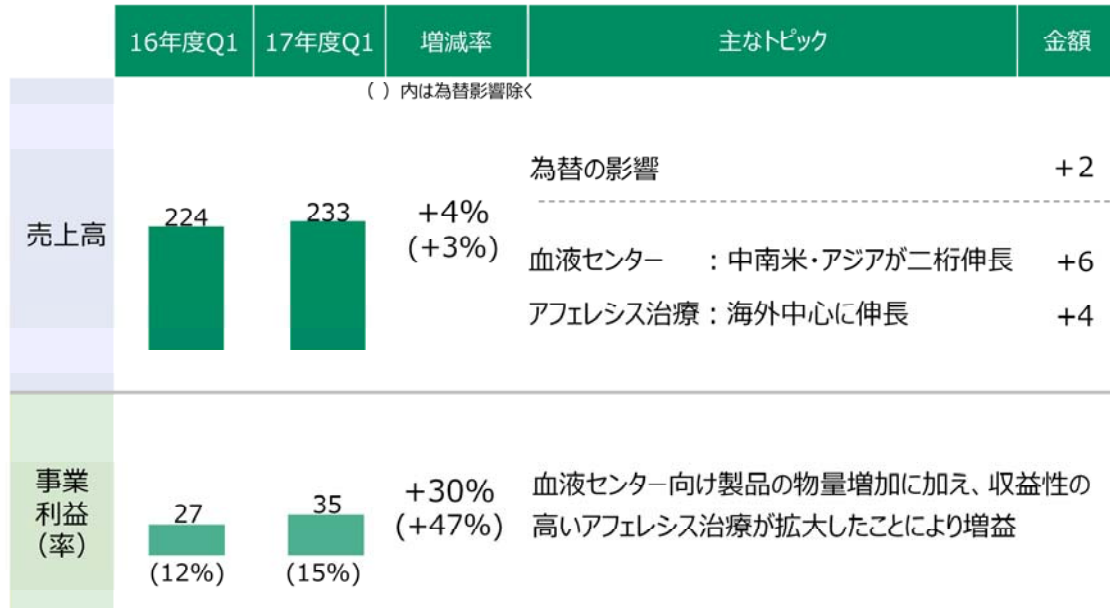
ホスピタルカンパニーは、第1四半期は減収の計画でした。これは、医薬品・栄養で透析液用のバッグ供給終了や、ヘルスケアで血圧計等の製品で収益性改善に向けたアカウントの整理を見込んでいたことに加え、アライアンス事業で、製薬企業の発注タイミングの違いにより、当期は前期と異なり下期に売上を大きく見込んでいることによるものです。

一方、医療器の製品で代理店の在庫調整や、輸液ポンプ・シリンジポンプの買い控えなどによるマイナスの影響が想定よりもやや大きく出ました。ただし、代理店の在庫調整の影響は、5月以降小さくなってきています。また、病院の予算執行上、輸液ポンプ・シリンジポンプなどの資本財への投資は、期初は低い水準で推移する傾向があります。加えて、当社は8月下旬に新型の輸液ポンプを発売する予定ですが、これも買い控えの要因の一つではないかと思っています。カンパニー全体の売上計画は下期偏重となっていますので、年間では計画を達成できると見えています。

事業利益は、前年同期比で5億円の増益、事業利益率も1ポイント改善し15%となりました。これは、低収益アカウントの整理による粗利益率の改善や、経費のコントロールなどが寄与しています。

血液システム：成長基調へ回復。収益性の改善基調続く

(億円)



8/19

血液システムカンパニーは、米国の血液センター向け製品の価格改定によるマイナスの影響が一巡したことに加えて、従来から堅調に推移していたアジアや中南米、海外でのアフレス治療分野の売上増も寄与し、増収となりました。

事業利益は、血液センター向け製品の物量増加に加えて、収益性の高いアフレス治療分野の売上が伸長したことにより、前年同期比30%増となりました。

主なトピックス

全社

- 新経営体制スタート

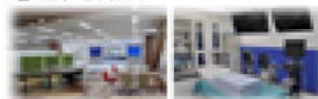


- 胸部・腹部ステントグラフト、米Bolton Medical社の買収完了を発表（4月）



事業

- 愛鷹工場内に、「TIS Mastery Center」を開設、カテーテル開発の促進・強化（5月）



- 薬剤充填用注射器「PLAJEX」を容器とし受託製造をするバイオシミラー、欧州において承認申請（5月）

PLAJEX



9/19

当四半期の主なトピックスです。

最大のトピックは、4月から代表取締役会長の三村、代表取締役社長の佐藤による新経営体制がスタートしたことです。

5月にはカテーテル製品の開発促進と開発力の強化を目指し、愛鷹工場内に「TIS Mastery Center」を開設しました。新たに開設する南カリフォルニアの開発拠点とともに、カテーテル製品の自社開発力を強化していきます。

17年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	領域	製品	地域
心臓	PTCAバルーン	米	CV	人工心肺装置(再出荷)	◎ 済み
	ステント(TRI)	★ 日・米・欧		次期・人工肺	◎ グローバル
ペリフェラル	PTAバルーン(TRI)	★ 日・米・欧	医療器	縦型・輸液ポンプ	日
	PTAガイディングシース(TRI)	★ 日・米・欧		抗がん剤暴露防止システム	済み
	薬剤塗布バルーン	◎ ★ 欧	DM	パッチ型・インスリンポンプ	★ 日
	塞栓コイル	◎ 欧	血液	次期・成分採血装置ソフトウェア	グローバル
脳	プロテクションデバイス	済み			
	ハイドロゲルコイル3D	欧米：済み 日：Q2予定			
オンコロジー	放射線塞栓柱ビーズ	★ 欧			

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高



薬剤塗布バルーン
「Kanshas」欧



人工心肺装置
再ローンチ グローバル



パッチ型
インスリンポンプ 日



10/19

今年度のパイプラインです。ほぼ想定通りに開発が進捗しています。

以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

17年度Q1 事業別・地域別売上高と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	135 (+5%)	656 (+27%)	201 (+20%)	291 (+32%)	85 (+26%)	79 (+27%)	791 (+22%)
うちカテーテル※	103 (+4%)	533 (+28%)	161 (+17%)	226 (+38%)	79 (+24%)	67 (+30%)	635 (+23%)
ホスピタル	289 (-4%)	79 (-6%)	19 (-12%)	17 (-6%)	5 (+10%)	39 (-4%)	369 (-4%)
血液システム	24 (-3%)	209 (+4%)	58 (-3%)	103 (+4%)	12 (+11%)	35 (+14%)	233 (+3%)
合計	449 (-1%)	944 (+18%)	277 (+12%)	411 (+21%)	102 (+23%)	153 (+15%)	1,393(+11%)

※ニューロバスキュラー事業含む
 () 内は為替影響除く前年比伸長率



12/19

販管費

(億円)

	16年度Q1	17年度Q1	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	179	203	+24	+13%	+12%
販促費	38	41	+3	+7%	+7%
物流費	28	30	+2	+7%	+7%
償却費	62	91	+29	+48%	+45%
その他	90	99	+9	+9%	+8%
一般管理費計	397 (31.9%)	464 (33.3%)	+67	+17%	+15%
研究開発費	81 (6.5%)	85 (6.1%)	+4	+5%	+4%
販管費合計	478 (38.4%)	549 (39.4%)	+71	+15%	+13%

四半期の動き

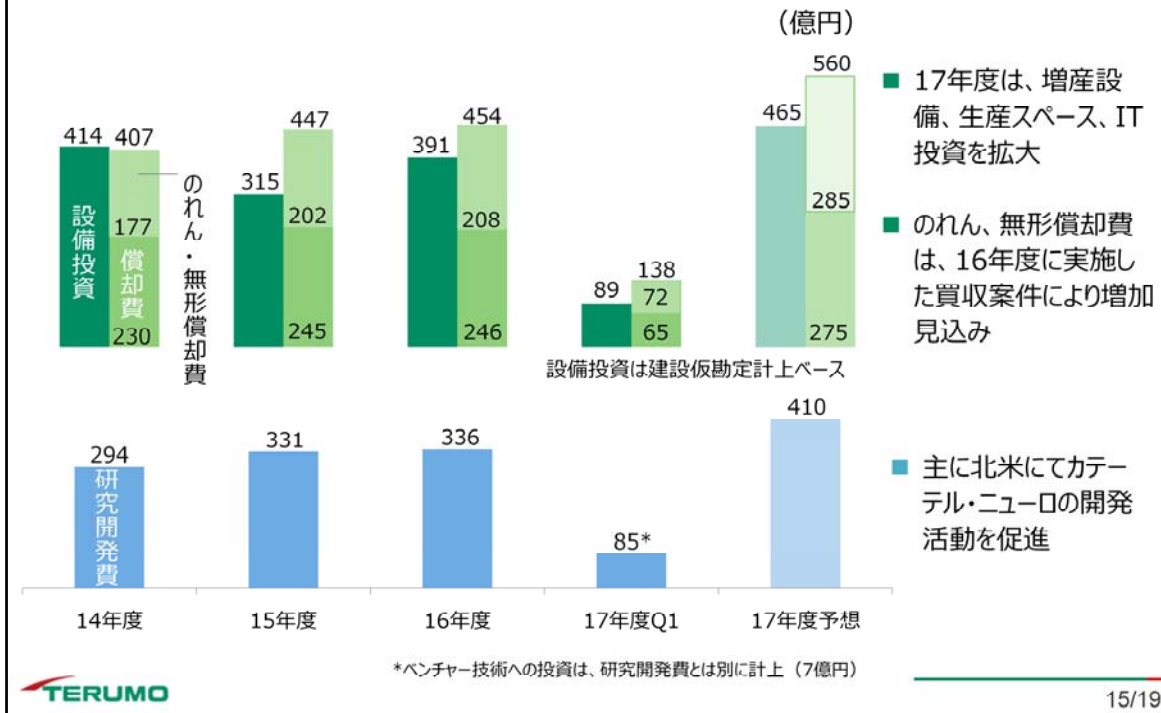
(億円)

	16年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	17年度Q1 (4-6月)
売上高	1,245	1,206	1,293	1,398	1,393
粗利益	692 (55.6%)	658 (54.6%)	687 (53.2%)	743 (53.2%)	783 (56.2%)
販管費	397 (31.9%)	396 (32.9%)	410 (31.7%)	474 (34.0%)	464 (33.3%)
開発費	81 (6.5%)	82 (6.8%)	82 (6.4%)	92 (6.6%)	85 (6.1%)
営業利益	214 (17.2%)	180 (14.9%)	195 (15.1%)	177 (12.6%)	234 (16.8%)
のれん等償却 除く営業利益	259 (20.8%)	226 (18.8%)	245 (19.0%)	242 (17.4%)	306 (22.0%)
四半期 平均レート	USD 108円	102円	109円	114円	111円
	EUR 122円	114円	118円	121円	122円

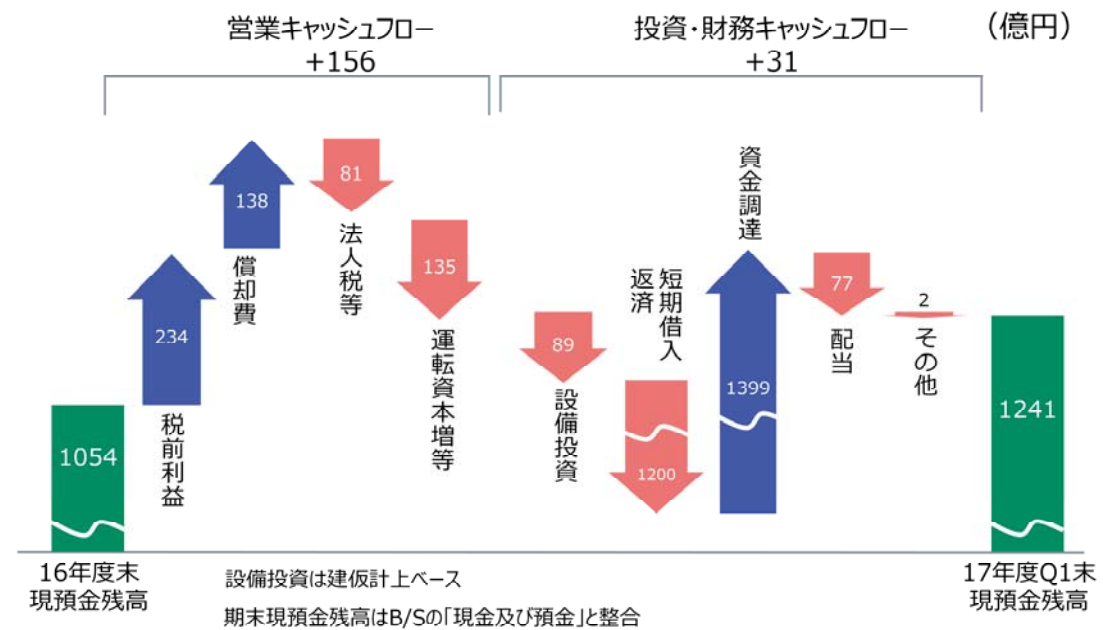


14/19

設備投資と研究開発費



キャッシュフロー



17年度 為替感応度

(億円)

	USD		EUR	人民元
	のれん等償却 除く	のれん等償却 含む		
売上高	16	16	8	18
営業利益	0	-2	5	9

<参考> 10%変動時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
営業利益	-18	8	56	10	14	33

(参考) IFRSベース

- 2017年度 期末決算からIFRS（国際会計基準）を適用
- 開示スケジュール 2017年度第1～3四半期 : 日本基準
2017年度期末決算短信から : IFRS

(億円)	参考		影響
	日本基準 17年度Q1	IFRS 17年度Q1	
売上高	1,393	1,393	-
営業利益 (率)	234 (16.8%)	286 (20.5%)	+52
調整後営業利益 (率)	306 (22.0%)	317 (22.8%)	+11
純利益	163	206	+43

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。